平均寿命と健康寿命（ｐ１２）

（平均寿命と健康寿命の差（不健康な期間）は縮まっていない）
我が国の平均寿命は、戦後、生活環境の改善や、医学の進歩により急速に延び、2015（平成 27）年の平均寿命は、男性 80.79 年、女性 87.05 年と世界トップクラスの長寿国となっている。
「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」である健康寿命についても、2013（平成 25）年時点で、男性 71.19 年、女性 74.21 年と世界トップクラスである。

一方で、我が国の平均寿命と健康寿命の推移について見てみると、平均寿命、健康寿命ともに延びているが、平均寿命と健康寿命との差、すなわち、日常生活に制限のある「不健康な期間」で見ると、2001（平成 13）年から 2013 年にかけて、男性で 8.67 年から 9.02 年、女性で 12.28 年から 12.40 年へと若干広がり縮まっていない。

日常生活に制限のある「不健康な期間」の拡大は、個人や家族の生活の質の低下を招くとともに、医療費や介護給付費等の社会保障費の増大にもつながる。

国立社会保障・人口問題研究所の日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）によれば、今後も我が国の平均寿命はさらに延びることが予測されており、平均寿命の延び以上に健康寿命を延ばす（不健康な期間を短縮する）ことが重要となる。